

令和元年5月30日現在

機関番号：13301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K00673

研究課題名(和文) 地域づくりと自然環境保全に資する「モザイク保護区」の研究

研究課題名(英文) Research on mosaic protected areas contributing to local development and nature conservation

研究代表者

北村 健二 (Kitamura, Kenji)

金沢大学・先端科学・社会共創推進機構・特任助教

研究者番号：10733959

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：一般的に自然保護区と称される保護地域のなかで、特に民有地において複数の区画にまたがり、所有や利用の形態も多様な性質をもつものについて、理論と実例の両面から検証をおこなった。コスタリカの農村における共有林、北海道東部の河川流域における住民主体の流域再生、カナダにおける住民主導の生物圏保存地域の登録・運営などの事例から、地域住民が自ら組織化し、外部の主体から知識・技術・資金などの支援を得て、地域づくりと自然環境保全を両立させるような保護地域運営をおこなうことが可能であることを示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

米国のイエローストーン国立公園に始まる近代的な自然保護区が、自然環境保全の名のもとに先住民を含む地域住民の福利を犠牲にするものであるという批判があるなかで、地域住民側が自然保護区という制度をむしろ積極的に活用することで、自然環境保全と地域づくりを両立させる仕組みを生み出すことが可能であることを、commons論などからの学術的な視座を踏まえ、実際の現場での事例の検証と結び付けたことに本研究の最大の特徴がある。

研究成果の概要(英文)：This project examined theory and practice of protected areas spanning across multiple parcels of land with diverse structures of property rights. Learning from such cases as a communal forest in rural area of Costa Rica, community-based watershed restoration in Hokkaido, Japan, and grassroots designation and management of a biosphere reserve in Canada, the project showed possibilities of protected areas contributing both to local development and nature conservation, as a result of combining self-organization of local residents with support from outside.

研究分野：環境政策・環境社会システム

キーワード：環境 地域 保護区 commons

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

地域住民の権利を奪うトップダウン型の保護地域が批判される一方で、地域コミュニティが資源や自然環境を持続可能な方法で利用・保全する能力を持つことが多くの事例とともに証明されてきた。近年では、「里山」や「先住民共同体保全地域」など、文化的景観として自然を利用しながら保全するボトムアップ型の管理の重要性が広く再認識されている。共有財としての資源管理を対象とするコモンズ研究もこの議論の一翼を担うが、保護地域の具体的な改善への貢献はまだ十分でない。

2. 研究の目的

複数の土地区画において、一定の権利と義務を所有者らが集合的に持ち、共通の目的のもとで協働する地域を疑似的な共有地としてのモザイク保護区とみなし、その地域に固有の制度や価値観を土台としつつ、地域住民が主体的に協働する仕組みや、区域外の課題と双方向につなぐ仕組みを、事例研究により検証することを目的とした。

3. 研究の方法

カナダ、コスタリカ、北海道、能登を中心とする国内・海外の事例を対象として、各事例において聞き取りや資料調査などによりデータを収集し、モザイク保護区に相当する各制度の構造を調査した。

4. 研究成果

カナダについては、サスカチュワン州にあるレッドベリーレイク生物圏保存地域の調査を重ね、現地における多様な主体が参画する会合に参加し、また自ら企画した。事例研究の成果は、2018年5月にカナダのハリファクスにおいて開催された国際会議(Communities, Conservation and Livelihoods)のなかで口頭発表をおこなった。自然環境保全を地域住民主体でおこなうこと、また、その際に生業活動の発展も目指すこと、という点で、会議全体のテーマとの整合性も高く、世界各国から集まった研究者・実務者との事例を共有し、共に議論できたことの意義は大きい。また、カナダの事例については、書籍『ユネスコエコパーク 地域の実践が育てる自然保護』(京都大学出版会)の一部として執筆し出版された。

コスタリカについては、文献・資料調査と現地調査を重ね、特に民有地に着目した包括的な保護地域政策に関して、複数の研究会で発表したほか、査読付き投稿論文として執筆し、国立歴史民俗博物館研究報告に掲載された。

北海道東部の西別川流域の事例については、地域住民が主導する形で河畔林の再生や行政上の境界を超えた協働が推進されたことに着目し、その活動での参与観察や聞き取りをもとに複数の国際学会等で発表し、査読付き投稿論文として執筆し、Sustainability誌に掲載されたほか、地域在来の道具や知識の積極的な活用が駆動要因となったことに焦点を当てた論考を書籍『地域環境学 トランスディシプリナリー・サイエンスへの挑戦』(東京大学出版会)の章として執筆し出版された。この書籍はシュプリングの学術誌(Transformation of Social-Ecological Systems: Studies in Co-creating Integrated Knowledge toward Sustainable Futures)として英語版でも出版された。

能登については、国連食糧農業機関が2011年6月に世界農業遺産に認定した「能登の里山里海」を舞台とした地域人材育成の取り組み事例について執筆し、書籍『地域環境学』とその英語版の両方に収められ出版された。大学・地域連携の成果については参加型評価の研究もおこない、第5回東アジア農業遺産学会において結果を報告した。

以上の事例研究を通じて、多種多様な所有形態の区画をつなぐモザイク保護区に相当する例が実在し、それが地域づくりと自然環境保全の両立を促進しうることが分かった。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計5件)

- 1) 北村健二、2019年、「民有地の森林保護区が環境保全と生業に及ぼす影響 コスタリカの事例から」、国立歴史民俗博物館研究報告第215集、33-51頁、査読有。
- 2) Kitamura, Kenji, Susan Carr, John Kindrachuk, Mark Johnston, and Maureen G. Reed. 2018. Local Communities and Researchers Working Together for Water Security: A Multi-Actor Dialogue in Saskatchewan, Canada. *Prairie Perspectives: Geographical Essays* 20: 49-53. <http://pcag.uwinnipeg.ca/Prairie-Perspectives/PP-Vol20/Kitamura-et-al.pdf> 査読無。
- 3) Kitamura, Kenji, Chigusa Nakagawa, and Tetsu Sato. 2018. Formation of a Community of Practice in the Watershed Scale, with Integrated Local Environmental Knowledge. *Sustainability* 10(2), 404; <https://doi.org/10.3390/su10020404> 査読有。

- 4) 北村健二、福嶋敦子、三木弘史、2017年、「漁業の模擬体験ゲーム Fish & Chips の設計と実践」、日本シミュレーション&ゲーミング学会全国大会論文報告集 2017年春号、14-17頁、査読無。
- 5) 北村健二、佐藤哲、モウリーン・リード、田中和博、2015年、「カナダと日本を比べ、森をめぐる『文化』を考える 『地域主体の森林資源管理に関する国際シンポジウム』における議論から」、山林、1576号、48-55頁、査読無。

〔学会発表〕(計10件)

- 1) 北村健二、2018年、「実践の共同体 活動しながら生まれる協働の仕組み」、リスク・レジリエンス研究会、金沢・珠洲、2018年9月28日。
- 2) 北村健二、2018年、「森林保全を目的とした共有地と、それを巡る利害関係者の性質」、森林所有権制度研究会 第3回研究会、茨木、2018年9月13日。
- 3) Kitamura, Kenji, Daisuke Utsunomiya, and Koji Ito. 2018. "Alternative Monitoring of the Program for Research and Capacity Development in Noto's Satoyama and Satoumi, Using a Participatory Method" Presented at the Fifth Conference of the Eastern Asia Research Association for Agricultural Heritage Systems (ERAHS), Minabe-Tanabe, Wakayama, Japan, August 26-29, 2018.
- 4) Kitamura, Kenji, and Maureen G. Reed. "A Biosphere Reserve of, by and for the local people: Redberry Lake Biosphere Reserve, Saskatchewan, Canada" Presented at the International Conference 'Communities, Conservation & Livelihoods', Halifax, Canada, May 28-30, 2018.
- 5) 北村健二、福嶋敦子、三木弘史、2017年、「漁業の模擬体験ゲーム Fish & Chips の設計と実践」、日本シミュレーション&ゲーミング学会 2017年春季全国大会、流通経済大学新松戸キャンパス、松戸、2017年5月27-28日。
- 6) Kitamura, Kenji, and Katsuhiko Ohashi. 2017. "Future Visions of Primary Industries Created by Collective Actions in the Nishibetsu Watershed in Japan" Presented at the ILEK Project International Symposium: Transformations of Social-Ecological Systems: Co-creating integrated knowledge toward sustainable futures, Kyoto, Japan, January 22, 2017.
- 7) 北村健二、2015年、「コスタリカの保護地域」、国立歴史民俗博物館「保護地域制度が周辺地域の生業変化や資源化に及ぼす影響」研究会、東京大学山中寮、山中湖村、2015年9月20~22日。
- 8) Kitamura, Kenji, and Maureen G. Reed. 2015. "Options and Opportunities to Collaborate for Sustainability of the Redberry Lake Biosphere Reserve" Presented at the Annual General Meeting of the Canadian Association of Geographers, Vancouver, Canada, June 1-5, 2015.
- 9) Kitamura, Kenji, and Tetsu Sato. 2015. "Integrated Local Environmental Knowledge for Actions Aimed at Encouraging Adaptive Societal Change: Community Initiatives in the Nishibetsu Watershed, Japan" Presented at the Fifteenth Biannual Global Conference of the International Association for the Study of the Commons, Edmonton, Canada, May 25-29, 2015.
- 10) Kitamura, Kenji, and Tetsu Sato. 2015. "Collective Action Based on Local Knowledge and Technologies: Reforestation and Sustainability in the Watershed in Hokkaido, Japan" Presented at the International Symposium on Community-based Management of Forest Resources: Perspectives on Culture, Learning and Adaptation in Canada and Japan, Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto, Japan, March 3-5, 2015.

〔図書〕(計3件)

- 1) 松田裕之、佐藤哲、湯本貴和(以上、編著)、北村健二ほか著、京都大学学術出版会、『ユ

ネスコエコパーク 地域の実践が育てる自然保護』、2019年、96-113頁。

- 2) Tetsu Sato, Ilan Chabay, and Jennifer Helgeson (eds.), Kenji Kitamura, Katsuhiko Ohashi, Koji Nakamura, et al. Springer. 2018. Transformations of Social-Ecological Systems: Studies in Co-creating Integrated Knowledge toward Sustainable Futures. 2018. pp.119-136, and pp.189-207.
- 3) 佐藤哲、菊地直樹（以上、編）、北村健二、大橋勝彦、中村浩二ほか著、東京大学出版会、『地域環境学 トランスディシプリナリー・サイエンスへの挑戦』、117-134頁および188-203頁。

〔産業財産権〕

出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

○著作物

- 1) 北村健二、2018年、「珠洲にSDGsがやってきた」、金沢大学能登学舎の窓から、広報せず、2018年10月号、24頁。
- 2) 北村健二、2018年、「『保全』って何だろう？」、金沢大学能登学舎の窓から、広報せず、2018年8月号、30頁。
- 3) 北村健二、2018年、「地域を支える若い力」、金沢大学能登学舎の窓から、広報せず、2018年4月号、38頁。
- 4) 北村健二、2018年、「能登学舎の最も身近なお隣りさんたち」、金沢大学能登学舎の窓から、広報せず、2018年3月号、18頁。
- 5) 北村健二、2018年、「受講生が語るマイスタープログラム」、金沢大学能登学舎の窓から、広報せず、2018年2月号、26頁。
- 6) Kitamura, Kenji, Maureen Reed, Mark Johnston, Susan Carr, and John Kindrachuk. 2016. International Water Security Workshop in Prince Albert. Prince Albert Model Forest Connects, 20-21.
- 7) 北村健二、2015年、「共に暮らす、共に働く、共に感じる」、Humanity & Nature Newsletter 55:12.

○招待講演・セミナー等

- 1) Kitamura, Kenji. 2019. "New Initiatives in Noto Related with the Sustainable Development Goals (SDGs)" Presented at the Fifth Philippine-Japan Workshop: Activation of Local Communities by Human Capacity Building and GIAHS Twinning, Wajima, Japan, February 3, 2018.
- 2) 北村健二、2018年、「ブラビーダの国で僕が見たこと コスタリカの自然と人々の暮らし」、

わかちあい劇場×能登 SDGs ラボ×耕す会共同開催<コストリカをみんなで考える座談会>、珠洲、2018年10月25日。

- 3) Kitamura, Kenji. 2018. "Current status and future prospects of the Noto Satoyama Satoumi Meister Program" Presented at the Joint Workshop of the Ifugao and Noto Meister Training Programs, Suzu, Japan, October 24, 2018.
- 4) 北村健二、2018年、「地域の自然と生業に関する国際的な研究の動向 カナダの事例から見えること」, 金沢大学能登里山里海研究部門・地域と人を耕す会 能登半島活性研究ネットワーク 第11回研究会、珠洲、2018年6月13日。
- 5) Kitamura, Kenji. 2018. "Preliminary Reflections on the Noto Satoyama Satoumi Meister Program" Presented at the Fourth Philippine-Japan Workshop: Sustainability Science and GIAHS -Sustainable Development of Noto and Ifugao by Twinning, Wajima, Japan, February 5, 2018.
- 6) 北村健二、2018年、「里山里海をめぐる活動成果をどう検証するか? 流域再生の事例から考える」, 金沢大学能登里山里海研究部門・地域と人を耕す会 能登半島活性研究ネットワーク 第7回研究会、珠洲、2018年1月26日。
- 7) 三木弘史、福嶋敦子、北村健二、2017年、「Fish & Chips: 来し方行く末」, 第282回地球研談話会セミナー、総合地球環境学研究所、京都、2017年2月21日。
- 8) 北村健二、2016年、「自然環境・資源における共有と協働」, 同志社大学リレー講義「環境システム学概論」, 同志社大学京田辺キャンパス、京都、2016年6月24日。
- 9) Kitamura, Kenji. 2016. "Deliberative discussion: How to do it and why?" Presented at the Water Security Workshop: Interactions between Community and Scientists, Prince Albert, Canada, May 3, 2016.
- 10) 北村健二、2016年、「今日のランチはBセット? 発表と対話の方法を考える」, 第267回地球研談話会セミナー、総合地球環境学研究所、京都、2016年3月15日。
- 11) Kitamura, Kenji, and Reiko Omoto. 2016. "Values and Collaboration Driven by Integrated Local Environmental Knowledge" Invited presentation at Ifugao Satoyama Training Meister Program Second Anniversary International Workshop, Kanazawa, Japan, February 11-12, 2016.
- 12) 北村健二、2015年、「『社会コミュニケーションに関する所内勉強会』の成り立ちと目的」, Transdisciplinary(TD)研究検討会(招待講演) 国立環境研究所、つくば、2015年11月17日。
- 13) Kitamura, Kenji. 2015. "Integrated Local Environmental Knowledge: Why Are Japanese researchers interested in Redberry Lake?" Invited presentation at Community Connections, Redberry Lake Biosphere Reserve, Hafford, Canada, October 23, 2015.
- 14) Kitamura, Kenji. 2015. "What is the ILEK Project? How Can We Collaborate with Model Forests and Biosphere Reserves?" Invited presentation at Prince Albert Model Forest Board of Directors' Meeting, Prince Albert, Canada, May 20, 2015.

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名:

ローマ字氏名:

所属研究機関名:

部局名:

職名:

研究者番号(8桁):

(2)研究協力者

研究協力者氏名：佐藤 哲

ローマ字氏名：SATO, Tetsu

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。